

2024 → 2025

開館時間・休館日

	利用時間	休館日	料金
美術館	9:30 - 18:00	・毎週水曜日 (祝日除く) ・祝日の翌日 ・年末年始	・コレクション展:一般300円(240円) ※()内は20人以上の団体料金 ・企画展・展覧会により異なります。 ・企画展観覧料でコレクション展も ご覧いただけます。
オノマトへの屋上	8:00 - 22:00	12月1日～3月15日	
駐車場	8:00 - 22:30		最初の1時間330円 以降30分毎に110円加算。 ※美術館利用の方、2時間無料 (事前精算機をご利用ください。)

※メンテナンスや展示替え作業等のため臨時休館する場合があります。
※季節やイベント等に応じて、臨時開館や延長開館する場合があります。

・次の方は、コレクション展・企画展ともに観覧無料

- 1) 児童、生徒(小・中学生、高校生など)
- 2) 学校教育、社会教育活動としての児童・生徒の引率者(観覧料免除申請書が必要です)
- 3) 各種手帳をお持ちの障がい者の方の観覧
(付き添いは手帳をお持ちの方1人につき1名まで無料)

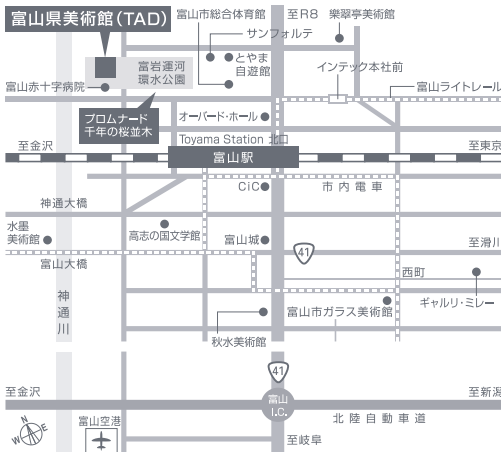
・大学生と70歳以上の方は、コレクション展が観覧無料

(大学生の対象は、大学、大学院、短期大学、高等専門学校(4学年以上)、専修学校(専門課程)、
専修学校(一般課程の19歳以上)、通信制大学、放送大学です)

・詳しくは富山県美術館ホームページでご確認いただくか、美術館へお問い合わせください。
・ご来館の際は、当館ホームページの「入館時のお願い」をご確認ください。

アクセス

- 富山駅北口(あいの風とやま鉄道改札側)から
徒歩約15分 / タクシー約3分
バス: 1番のりばより乗車、「富山県美術館」下車すぐ
- 富山空港より……タクシー: 約20分(約9km)
- 北陸自動車道より……自動車: 約15分(富山I.C.から国道41号経由)



Toyama Prefectural Museum of Art & Design

富山県美術館(TAD) 展覧会スケジュール 2024.4 - 2025.3

富山県美術館(TAD)

TAD: Toyama Prefectural Museum of Art and Design
※Toyama Art Designの頭文字をとり、TADと略称しています。

〒930-0806 富山県富山市木場町3-20(富岩運河環水公園内)
TEL: 076-431-2711 FAX: 076-431-2712 <https://tad-toyama.jp/>

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
展示室1	第Ⅺ期 - 4/7	コレクション展Ⅰ期 4/11 - 7/15					コレクション展Ⅱ期 7/18 - 11/4		コレクション展Ⅲ期 11/7 - 2/4		コレクション展Ⅳ期 2/6 -	
展示室2	倉俣史朗のデザイン 「記憶のなかの小宇宙」		北日本新聞創刊140周年記念 「エッセイヤー不思議の国」		民藝—MINGEI 美は暮らしのなかにある			第14回 世界ポスタートリエンナーレ トヤマ2024		没後20年 東野芳明と戦後美術		
展示室3												
展示室4	- 4/7	4/27 - 6/30			7/13 - 9/23			10/12 - 12/15			1/25 - 4/6	
展示室5	第Ⅺ期 -4/23	デザイン・ コレクション展Ⅰ期 4/25 - 7/15					デザイン・コレクション展Ⅱ期 7/18 - 11/4		デザイン・コレクション展Ⅲ期 11/7 - 2/11		デザイン・ コレクション展Ⅳ期 2/13 -	
展示室6	第Ⅺ期 -4/23	瀧口修造コレクションⅠ期 4/25 - 7/15					瀧口修造コレクションⅡ期 7/18 - 11/4		瀧口修造コレクションⅢ期 11/7 - 2/11		瀧口修造 コレクションⅣ期 2/13 -	
	第Ⅺ期 -4/23	シモン・ゴールドベルク& 山根美代子 コレクションⅠ期 4/25 - 7/15					シモン・ゴールドベルク& 山根美代子 コレクションⅡ期 7/18 - 11/4		シモン・ゴールドベルク& 山根美代子 コレクションⅢ期 11/7 - 2/11		シモン・ゴールドベルク& 山根美代子 コレクションⅣ期 2/13 -	
	企画展	コレクション展					まるごとTADこども美術館					

※記載内容は都合により変更する場合がありますので、ご了承ください。

2階 展示室1

約3か月に1度の展示替えで、自慢のコレクションを多彩に展示。常に新鮮な出会いが楽しめます。

3階 展示室5

デザイン・コレクション

ポスターと椅子を中心としたデザインコレクション。国内外のすぐれたポスターとともに、デザイン史に残る名作椅子が並びます。ポスターは、タッチパネルで好きな作品を大きく表示できる大型ディスプレイでも自由に楽しめます。

3階 展示室6

瀧口修造コレクション

シモン・ゴールドベルク&山根美代子コレクション

富山県出身の詩人・美術評論家の瀧口修造と、世界的な音楽家シモン・ゴールドベルク&山根美代子のコレクション。瀧口の部屋には、ミロやデュシャンなど親交を結んだ作家たちから贈られた作品などが並びます。また、富山を愛し晩年を過ごした天才ヴァイオリニスト、ゴールドベルクが生前に集めた20世紀の優品を展示します。



撮影:大辻清司《書斎の瀧口修造夫妻》1975年



ヘリット・トマス・リートフェルト(製造1990年代)
《レッド・アンド・ブルー》1918-23年



アンリ・ド・トゥールーズ=ロートレック
《マンジンの肖像》1901年



パブロ・ピカソ《座る女》1960年
©2024-Succession Pablo Picasso - BCF (JAPAN)

※記載内容は都合により変更する場合がありますので、ご了承ください。

北日本新聞創刊140周年記念

「エッシャー不思議のヒミツ」

2024年4月27日(土) - 6月30日(日)

一般(団体): ¥1,500(¥1,200)

大学生(団体): ¥1,000(¥800)

一般前売り: ¥1,200

※()内は20名以上の団体料金

エッシャー(正式名 マウリッツ・コルネリス・エッシャー、1898-1972年、オランダ生まれ)は、みる人に驚きと発見を与え、数学者やアーティストから子どもたちにまで世界的に人気の高い版画家です。

ある形で平面をくまなく覆い尽くす「テセレーション(敷き詰め)」、一つの形が次第に別の形へと変形する「メタモルフォーゼ(変容)」など、人間の視覚や錯覚を利用した緻密で幾何学的な画風が特徴です。

本展は、オランダのエッシャー財団の全面的協力のもと、初期のイタリアの風景から「だまし絵」的な代表作まで、約160点を一堂にご紹介します。また、作品を模したセットなどを使って、エッシャーの作品を体感する場を設けます。デジタル社会を生きる私たちが、版画という手法で想像力豊かな世界を生み出した、エッシャーの魅力を楽しめる展覧会です。



M.C.エッシャー《昼と夜》1938年制作 Day and Night, 1938
木版 Woodcut, 39.1x67.7cm Maurits Collection, Italy All M.C. Escher works
© 2023 The M.C. Escher Company, Baarn, The Netherlands. All rights reserved mcescher.com

民藝 MINGEI

—美は暮らしのなかにある

2024年7月13日(土) - 9月23日(月・祝)

一般: ¥1,300(¥1,000)

大学生: ¥650(¥500)

一般前売り: ¥1,000

※()内は20名以上の団体料金

約100年前に思想家・柳宗悦は、市井の人々の暮らしで用いられてきた手仕事の品に美を見出し、民衆的工藝=「民藝」と呼びました。本展では、そうした民藝の品々約150件を展示致します。

「第I章:1941 生活展」では、柳自ら1941年に日本民藝館において企画した「生活展」の再現を試みます。また、「第II章:暮らしのなかの民藝」では、市井の人々によって作られ、用いられてきた品々を、衣・食・住という切り口からひも解きます。

「第III章:ひろがる民藝」では、富山県、八尾の和紙など国内5つの産地の「いま」を紹介する展示や、現在の民藝ブームをけん引するセレクトショップ「MOGI Folk Art」のディレクター、テリー・エリスと北村恵子が世界各地で見つけた品々と現代の暮らしを融合した「これからの民藝スタイル」をインスタレーションとして提案します。

柳が説いた生活の中の美、民藝とは何か、そのひろがりや今、そしてこれからの姿を展望する展覧会です。



[左から] 角酒瓶 小谷眞三 倉敷(岡山) 1979年 /
酒瓶 小谷眞三 倉敷(岡山) 1985年頃 / 栓付瓶 メキシコ 20世紀中頃

廣沼帯 下野廣沼(栃木) 1939年頃

すべて日本民藝館蔵 photo: Yuki Ogawa

第14回

世界ポスタートリエンナーレトヤマ2024

2024年10月12日(土) - 12月15日(日)

一般: ¥1,300(¥1,000)

大学生: ¥650(¥500)

一般前売り: ¥1,000

※()内は20名以上の団体料金



この展覧会は、世界のポスターデザインの現況と成果を概観するため、作品を国際的に公募・選抜して展示公開するポスター展です。「IPT」の愛称で知られる本展は、旧・近代美術館時代の1985年に始まった第1回公募から、トリエンナーレ(3年に一度開催)としての歴史を重ね、IPT2024で第14回目を迎えます。毎回、国内・国外より優れたポスター作品が寄せられ、世界屈指のポスター展として注目を集めています。今回の第14回展においても、紙媒体でのポスター作品の募集とともに、学生であれば年齢を問わず応募可能なデジタルデータ応募「U30+ Student部門」を設けています。このIPT2024に向けて世界から富山に集まった応募作品に対し、国際的に活躍する国内外のグラフィックデザイナー等による審査員をおこないます。会場では審査を通過した入選・受賞作品と実行委員・審査員による招待出品が一堂に会します。ポスターの新しい魅力が発見されつつあるなか、1枚の紙にのせた言葉を超えたビジュアルのメッセージが世界から富山に集まる本展で、最新のポスター、グラフィックデザインの世界にふれていただきます。



世界ポスタートリエンナーレトヤマ2024公募告知ビジュアル デザイン:永井裕尚

没後20年 東野芳明と戦後美術

2025年1月25日(土) - 2025年4月6日(日)

料金未定

※決定次第、当館ホームページにてお知らせします。

東野芳明(とうの・よしあき、1930-2005)は戦後に活躍した美術評論家です。1954年に東京大学を卒業した東野は、同年、評論「パウール・クレエ試論」が雑誌『美術批評』の新人評論募集で一席となり、美術評論家として歩み始めました。1950年代末に渡欧・渡米した東野は、そこで目にした欧米の「現代美術」をいち早く国内で紹介することに努め、60年代以降は、「反芸術」と称した同世代の芸術家たちの伴走者として、彼らの活動を後押ししました。東野は、創作現場での体験を交えた、臨場感に満ちた批評を執筆するのみならず、展覧会の企画にも携わり、国内外の作り手たちと多くの時間を共有しました。後年は、水をめぐる思索を深め、趣味の素潜りによる写真作品も制作しています。

東野の没後20年を記念して開催するこの展覧会では、当館のコレクション・資料を中心に、東野の美術評論家としての歩みを紹介します。東野は、当館の前身である富山県立近代美術館の運営委員を務めるなど、特に関りの深い評論家であり、コレクション形成にも大きな影響を与えました。当館は東野が言及した芸術家の作品のみならず、東野旧蔵の資料(書籍、作品等)も収蔵しています。展覧会を通して、東野の批評と彼が見詰めた美術を振り返ります。



ルネ・ロラン[左から瀬口修造、東野芳明、アンドレ・ブルトン]1958年(プリント1993年)、当館蔵